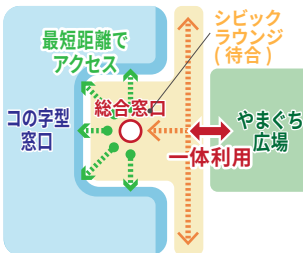


ワンフロア窓口「シビックラウンジ」

ホスピタリティの高いコの字型の窓口

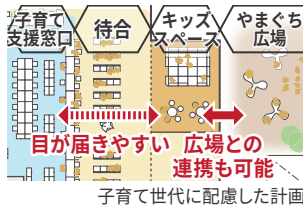
- ・待合を囲むようなコの字型に市民窓口を配置することで、市民の動線が最短で、すぐに行き先が見つけれられる見通しの良い計画とします。
- ・2階に利用が多い窓口を集約し、手続きがワンフロアで完結する配置とします。
- ・シビックラウンジからやまぐち広場の様子が伺え、一体的な利用も可能です。



窓口の基本的な考え方

子育て世代が使いやすい計画

- ・子育て支援窓口の待合にいる親から見やすい位置にキッズスペースを配置します。隣接する広場は、子どもの遊び場として利用可能です。

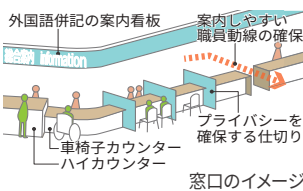


子育て世代に配慮した計画

窓口業務の将来の変化を見据えた計画

市民をやさしく迎え入れる窓口

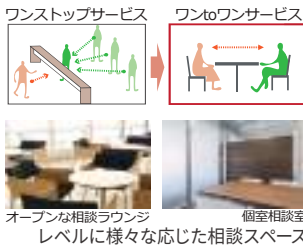
- ・すべての人が使いやすいローカウンターを基本とし、丁寧な対応と対話を促す、ひらかれた窓口とします。



窓口のイメージ

相談重視型の市民サービス

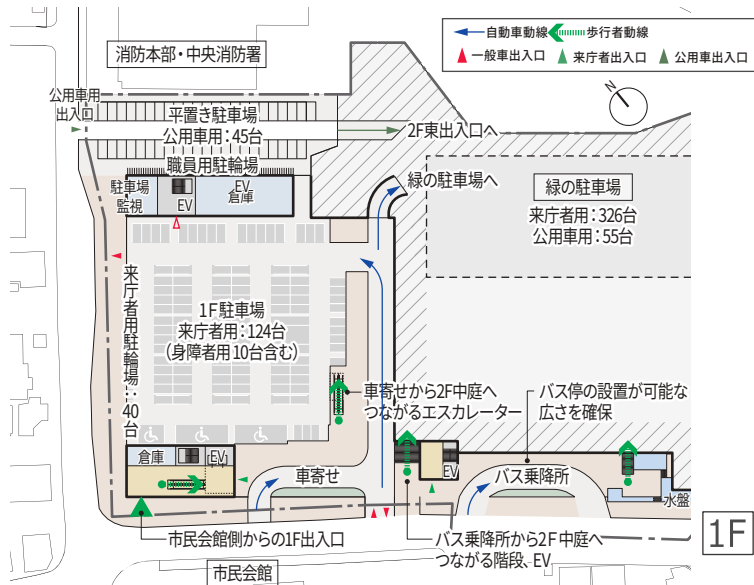
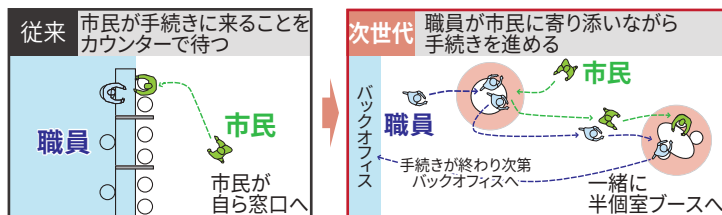
- ・高齢者と向き合うことの多い市民サービスにおいて、多様で複合的な相談に応じることのできる相談重視型のワンストップサービスに対応できる設えとします。
- ・衝立付のローカウンターやプライバシーに特に配慮した相談室、より気軽に相談できるラウンジを配置し、多様なニーズに応えられる窓口とします。



レベルに様々な応じた相談スペース

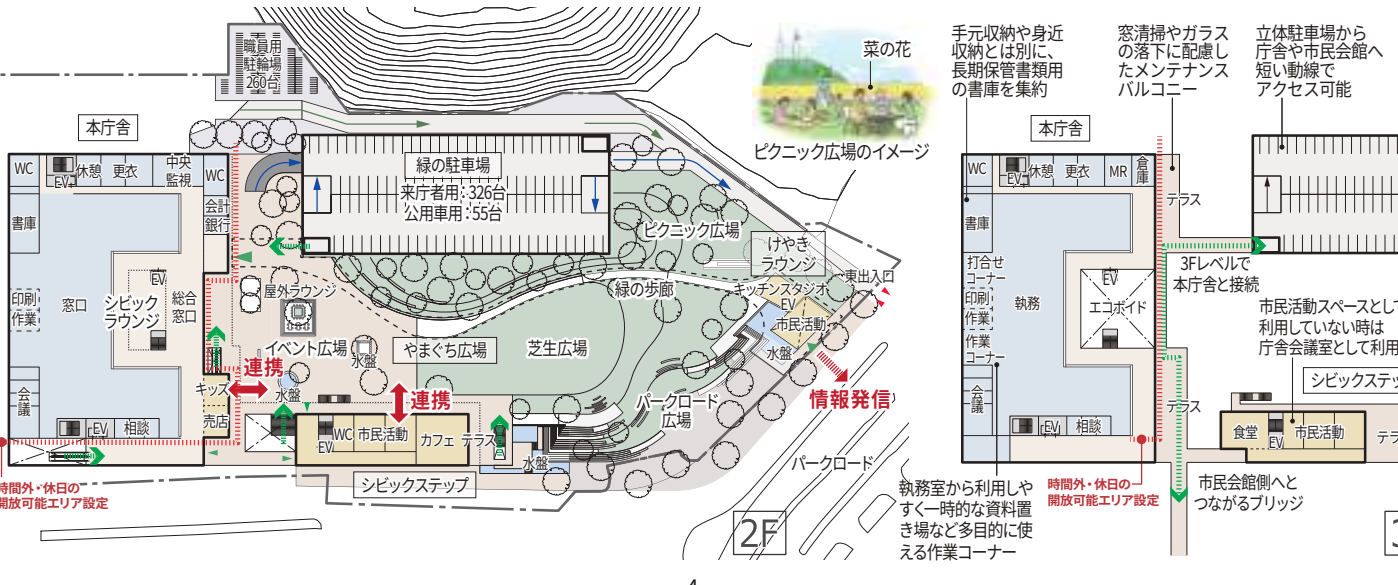
次世代のワンストップ窓口のあり方

- ・将来、職員が受付カウンターで市民を待つ従来の対応から、職員自ら個別のブースに出向き、手続きを進める対応に変わっていきます。次世代型窓口を見据えた執務室、待合のあり方を検討します。



遠い将来を見つめ、見通し、見据えた「未来への丘」

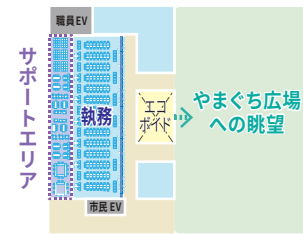
急速な少子高齢化と人口減少をしっかりと見つめ、時代とともに次世代へしっかりと引き継ぐことのできるフレキシブルな庁舎づくり



フレキシブルに使いやすい執務空間

整形で合理的なオープンフロア

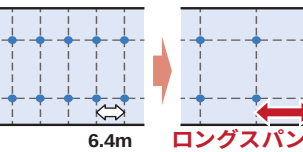
- ・両端コアにより間口を広く確保し、将来の組織変更に柔軟に対応できるオープンフロアの執務室を計画します。
- ・西側のサポートエリアに打合せコーナーや作業コーナーを設け、執務の生産性を高めます。



執務フロアの基本的な考え方

フレキシビリティの高いロングスパン架構

- ・ロングスパン化により多様なオフィスレイアウトが可能な計画とします。レイアウトや間仕切りの自由度が高く、職員間の連携を図りやすい執務スペースを計画します。

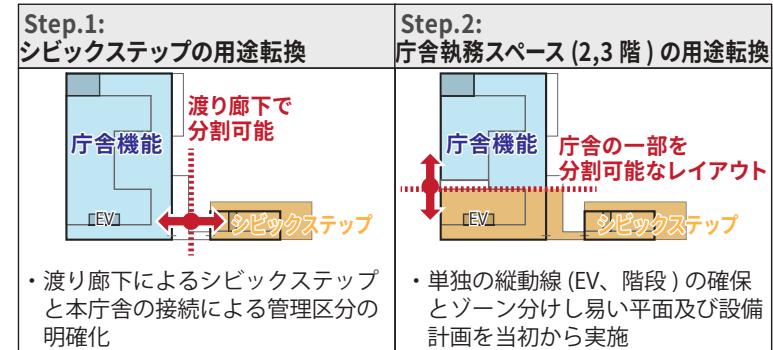


ロングスパン化

将来の行政サービス・ニーズの変化を見据えた計画

用途転換可能な平面計画

- ・今後の急速な人口減少や、AI等の新技術の導入にともなう行政サービスのかたちの変化や職員数の縮小を踏まえ、執務スペースのコンパクト化や他用途への転換を当初から想定した計画とします。
- ・具体的には、NPO、コワーキングスペース、シニアの活動の場等の利用を想定し、シビックステップの用途転換、さらには本庁舎執務スペースの一部の用途転換が可能な動線計画・ゾーニング・設備計画とします。



将来の周辺施設の建替えを踏まえた計画

山口市消防本部の建替えに備えたスペースを確保

- ・本庁舎の北側に十分なスペースを確保し、敷地内に消防本部の建替えが可能な計画とします。また、渡り廊下での接続を踏まえた平面計画とし、増築時の改修に配慮します。

